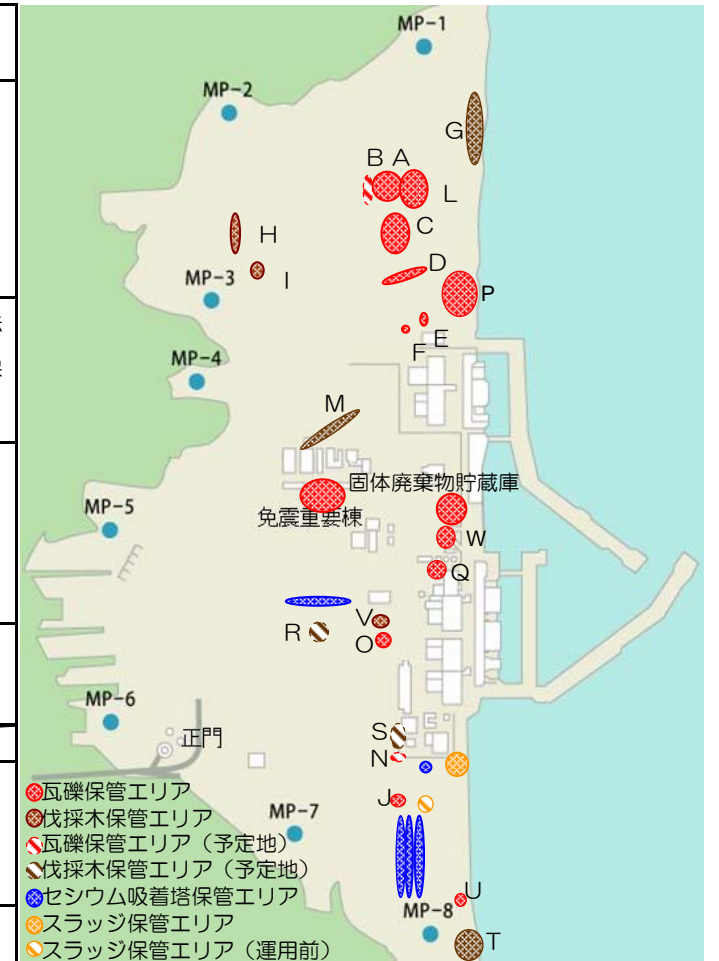




## ガレキ・伐採木の管理状況(2015.1.31時点)

分類	保管場所	エリア境界 空間線量率 (mSv/h)	保管方法	保管量 <sup>※1</sup>		前回報告比 <sup>※2</sup> (2014.12.26)		変動 <sup>※3</sup> 理由	エリア 占有率	保管量/保管容量 (割合)	トピックス	
				m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>					
ガレキ	屋外集積 (0.1mSv/h以下)	C:敷地北側	0.01未満	屋外集積	52,000	m <sup>3</sup>	+1,500	m <sup>3</sup>	②③④⑤	92%	88,600 / 158,100 (56%)	・主なガレキは、工事で発生した廃材。 ・エリアP1造成完了、運用準備開始(H26年10月24日) 瓦礫受入開始(H27年1月19日)
		F:敷地北側	0.01	屋外集積	3,000	m <sup>3</sup>	+400	m <sup>3</sup>	⑥	40%		
		J:敷地南側	0.03	屋外集積	4,700	m <sup>3</sup>	0	m <sup>3</sup>	—	98%		
		O:敷地南西側	0.01未満	屋外集積	26,200	m <sup>3</sup>	0	m <sup>3</sup>	—	95%		
		P:敷地北側	0.01未満	屋外集積	2,000	m <sup>3</sup>	+2,000	m <sup>3</sup>	④	3%		
	シート養生 (0.1~1mSv/h)	D:敷地北側	0.01	シート養生	2,600	m <sup>3</sup>	0	m <sup>3</sup>	—	88%	27,400 / 48,300 (57%)	・主なガレキは、工事で発生した廃材、建屋内に設置していた撤去機器、水処理で使用したホース類及び廃車両。 ・今後発生量の増加が見込まれるため、廃棄物発生量の抑制や既保管物の減容処理を進めていく。 ・エリアP2造成完了、運用準備開始(H26年10月24日)
		E:敷地北側	0.02	シート養生	4,300	m <sup>3</sup>	+100	m <sup>3</sup>	⑤	27%		
		P:敷地北側	0.01未満	シート養生	0	m <sup>3</sup>	0	m <sup>3</sup>	—	0%		
	覆土式一時保管施設、仮設保管設備、容器 (1~30mSv/h)	L:敷地北側	0.01未満	覆土式一時保管施設	8,000	m <sup>3</sup>	0	m <sup>3</sup>	—	100%	17,400 / 23,700 (73%)	・主なガレキは、原子炉建屋上部等で撤去されたガレキ。 ・1号機ガレキ撤去に向けて、覆土式一時保管施設3,4槽設置(8,000m <sup>3</sup> )の安全協定に基づく事前了解(H26年8月12日)。 ・エリアE2造成完了、運用準備開始(H26年10月24日) 保管容器受入開始(H26年12月9日) ・覆土式一時保管施設3槽設置工事開始(H26年11月10日)
		A:敷地北側	0.45	仮設保管設備	3,100	m <sup>3</sup>	+100	m <sup>3</sup>	①	44%		
		E:敷地北側	0.01未満	容器	0	m <sup>3</sup>	0	m <sup>3</sup>	—	0%		
		F:敷地北側	0.01	容器	600	m <sup>3</sup>	0	m <sup>3</sup>	—	99%		
	固体廃棄物貯蔵庫	固体廃棄物貯蔵庫	0.03	容器	5,700	m <sup>3</sup>	微増	m <sup>3</sup>	—	93%	5,100 / 12,000 (43%)	・主なガレキは、原子炉建屋上部等で撤去された高線量ガレキ。 ・第9棟設置(ドラム缶 約11万本)に向けて安全協定に基づく事前了解(H26年8月12日)。 ・第9棟設置に伴う実施計画変更認可申請(H26年8月13日)
Q:敷地西側												
合計(ガレキ)				138,600	m <sup>3</sup>	+4,200	m <sup>3</sup>	—	57%			
伐採木	屋外集積 (幹・根・枝・葉)	H:敷地北側	0.01	屋外集積	14,300	m <sup>3</sup>	0	m <sup>3</sup>	—	81%	62,400 / 88,200 (71%)	・主にエリアP1造成により伐採した幹・根を受入。 その他工事により発生した幹・根を随時受入中。
		I:敷地北側	0.01	屋外集積	10,500	m <sup>3</sup>	0	m <sup>3</sup>	—	100%		
		M:敷地西側	0.01	屋外集積	37,600	m <sup>3</sup>	0	m <sup>3</sup>	—	83%		
		V:敷地南側	-	屋外集積	0	m <sup>3</sup>	0	m <sup>3</sup>	—	0%		
	一時保管槽 (枝・葉)	G:敷地北側	0.01未満	伐採木一時保管槽	7,300	m <sup>3</sup>	0	m <sup>3</sup>	—	27%	17,400 / 50,100 (35%)	・当面受入を計画していた枝葉については、チップ化した後、エリアTの伐採木一時保管槽へ受入完了。
T:敷地南側		0.01	伐採木一時保管槽	10,100	m <sup>3</sup>	0	m <sup>3</sup>	—	44%			
合計(伐採木)				79,700	m <sup>3</sup>	0	m <sup>3</sup>	—	58%			



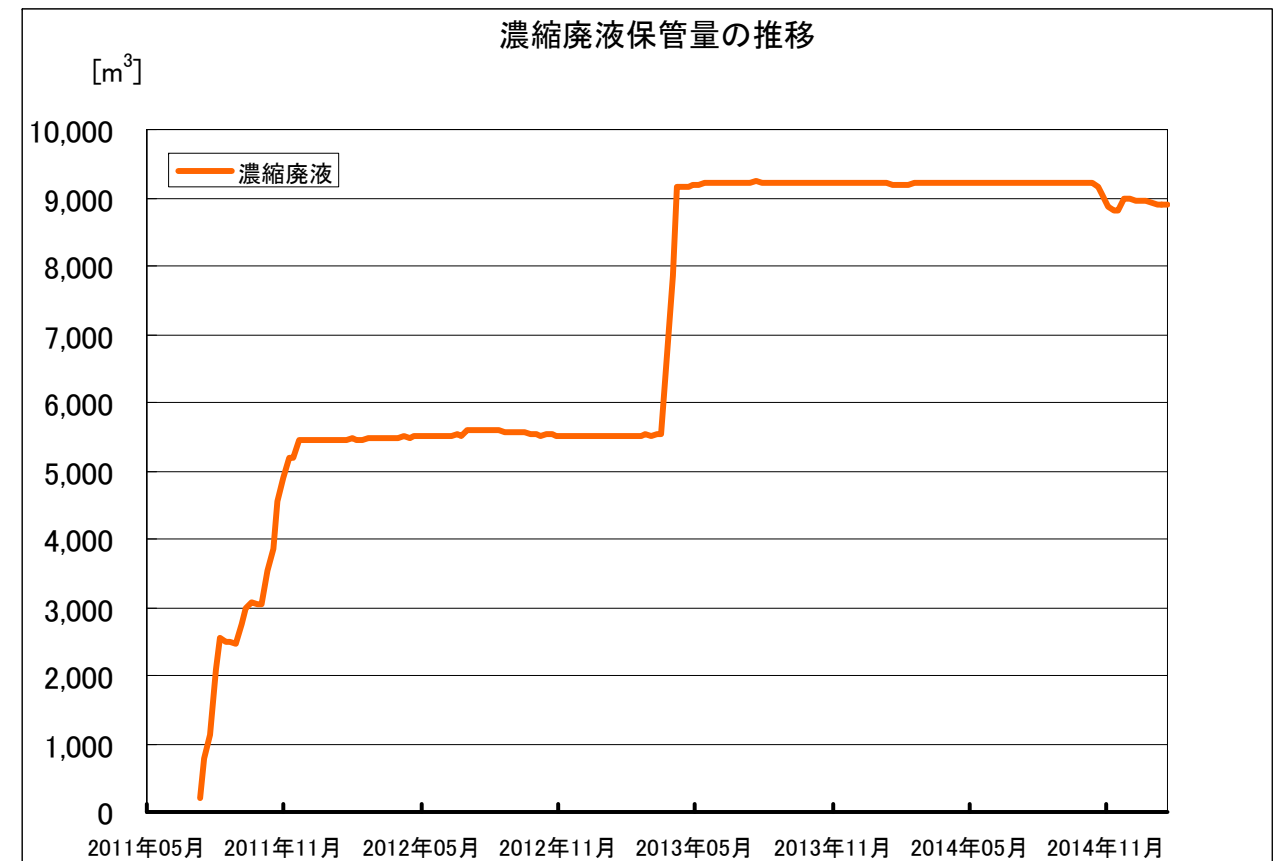
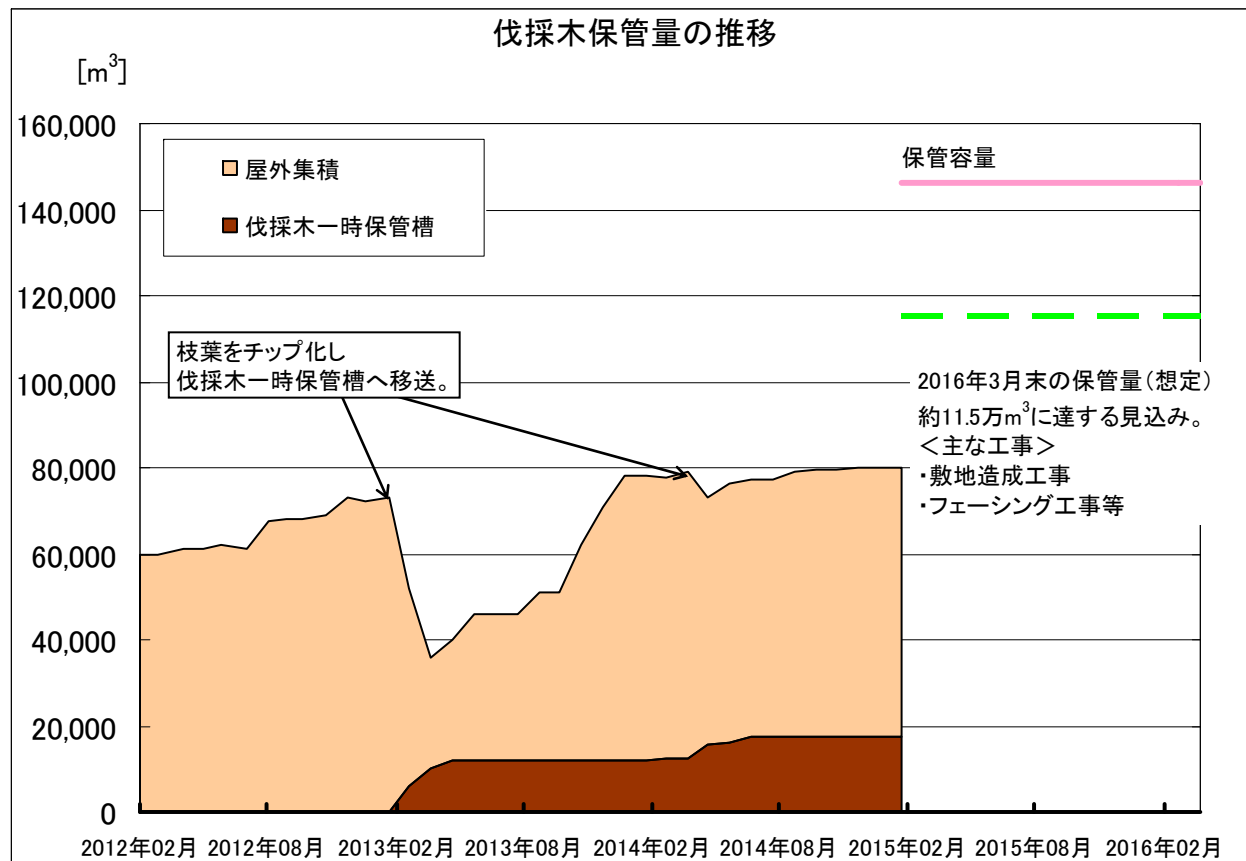
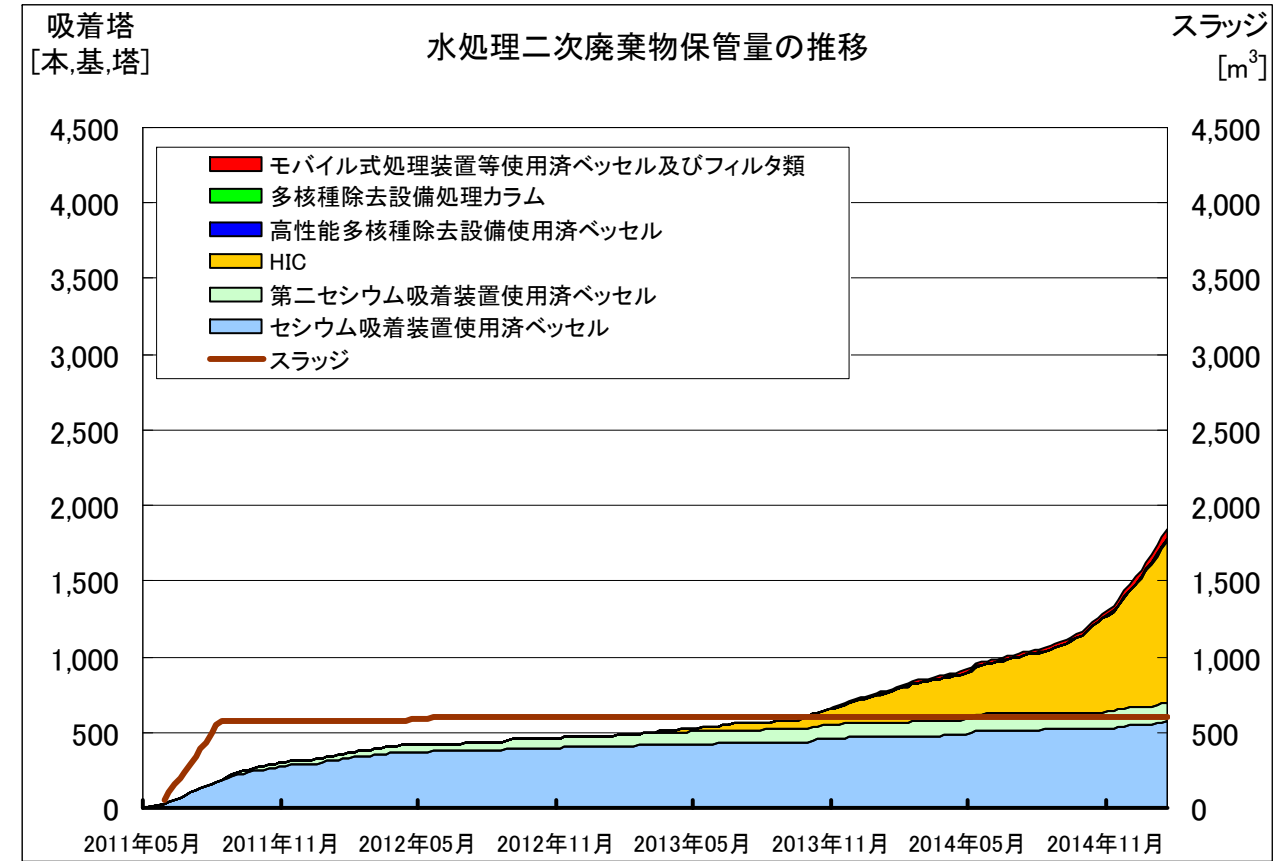
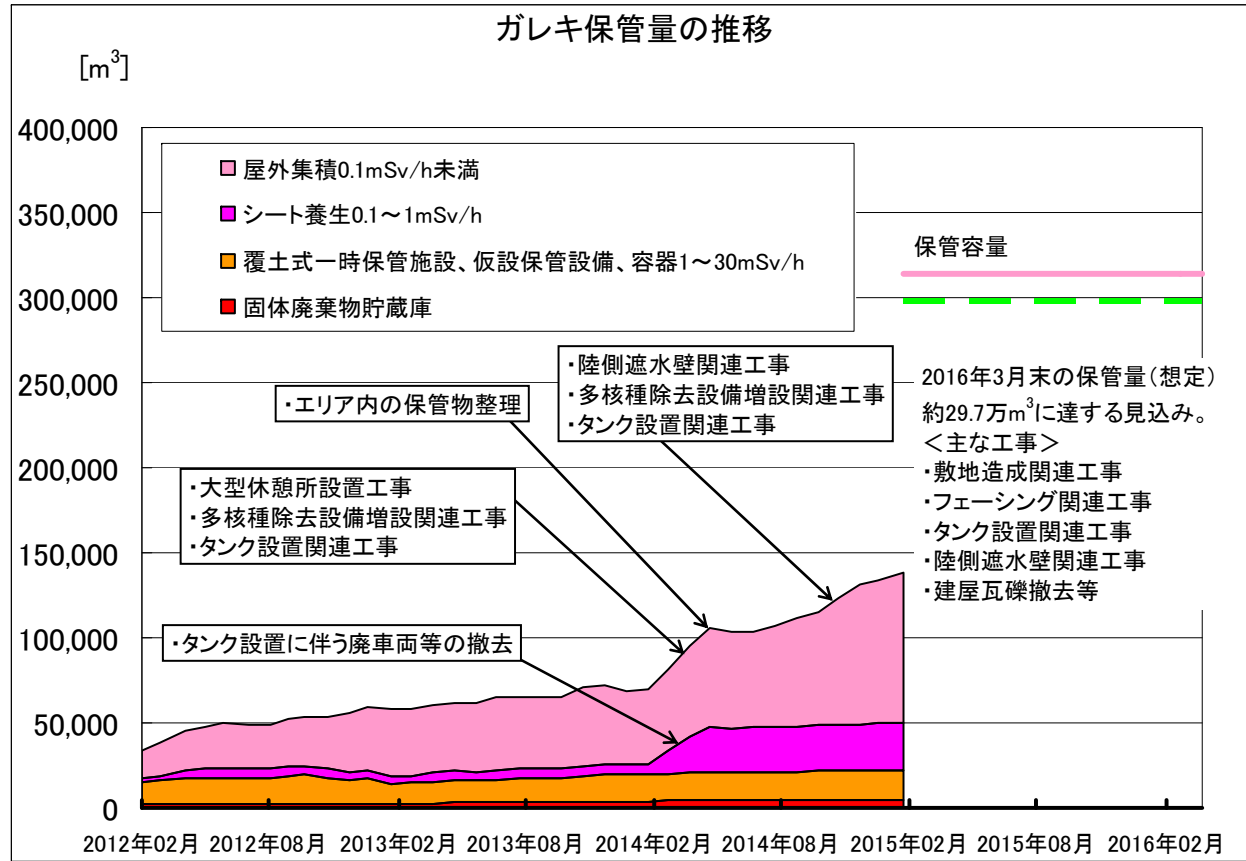
※1 端数処理で100m3未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。  
 ※2 100m3未満を端数処理しており、微増・微減とは100m3未満の増減を示す。  
 ※3 主な変動理由: ①1~4号建屋周辺瓦礫撤去関連工事 ②タンク設置関連工事 ③多核種除去設備増設関連工事  
 ④フェーシング関連工事 ⑤陸側遮水壁設置関連工事 ⑥焼却対象物の集約作業 等  
 ※4 水処理二次廃棄物(小型フィルタ等)を含む。

## 水処理二次廃棄物の管理状況(2015.2.19時点)

分類	保管場所	種類	保管量		前回報告比 <sup>※2</sup> (2015.1.22)		保管量/保管容量 (割合)	トピックス	
			本	基	本	基			
水処理二次廃棄物	使用済吸着塔保管施設	セシウム吸着装置使用済ベッセル	570	本	+20	本	1,846 / 4,469 (+225) (+1,152) (41%)	・多核種除去設備の高性能容器を保管する使用済吸着塔一時保管施設第三施設(容量3,456本/18ブロック <sup>※</sup> )について実施計画変更認可(H26年11月20日) 使用前検査が終了し使用承認を得た範囲768本/4ブロック <sup>※</sup> を運用開始(H26年12月9日) 1,152本/6ブロック <sup>※</sup> を運用開始(H27年2月17日) ※192本/ブロック	
		第二セシウム吸着装置使用済ベッセル	121	本	+1	本			
		多核種除去設備等保管容器	既設	779	基	+89			基
			増設	290	基	+85			基
		高性能多核種除去設備使用済ベッセル	高性能	17	本	+8			本
	多核種除去設備処理カラム	既設	3	塔	0	塔			
モバイル式処理装置等使用済ベッセル及びフィルタ類		66	本	+22	本				
	廃スラッジ貯蔵施設	廃スラッジ	597	m <sup>3</sup>	0	m <sup>3</sup>	597 / 700 (85%)	・除染装置の運転計画は無く、新たに廃棄物が増える見込みは無い。 ・準備が整い次第、除染装置の廃止について実施計画の変更申請を行う。	
	濃縮廃液タンク	濃縮廃液	8,891	m <sup>3</sup>	-57	m <sup>3</sup>	8,891 / 20,000 (44%)		



# ガレキ・伐採木・水処理二次廃棄物の保管量推移



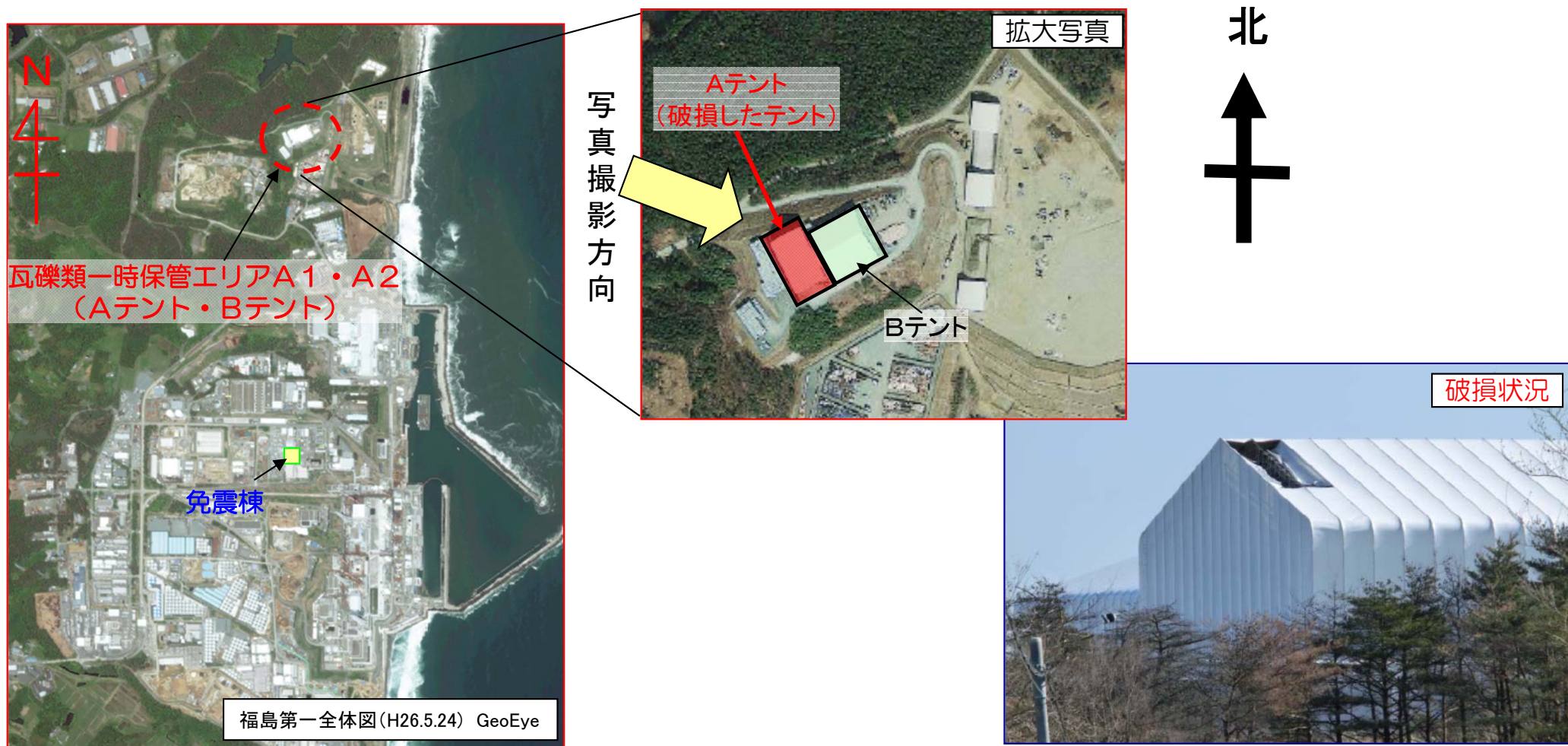
---

# 瓦礫類一時保管エリアA1の破損について

平成27年2月26日  
東京電力株式会社  
放射性廃棄物処理・処分

# 1. 事象概要および発生場所

2月16日（月）10：03頃、防護管理Gのパトロールにおいて、瓦礫類一時保管エリアA1（Aテント）の上部シート（約14m×約3.6m）が破損しているのを、防護管理Gメンバーが発見した。  
破損原因は現在確認中だが、週末の強風によるものと推測される。



## 2. 瓦礫類一時保管エリアA1（Aテント）状況

東京電力株式会社  
放射性廃棄物処理・処分  
平成27年2月26日

一時保管エリアA1（Aテント）は実施計画にて、高線量の瓦礫（30mSv/h未満）に遮蔽を行って一時保管するとしている。

保管容量2,400m<sup>3</sup>のうち、現在の瓦礫保管量は約20m<sup>3</sup>である。

なお、テント内には遮蔽用の土嚢（トンパック）および瓦礫入りの金属容器（仮置き中）も保管されている。



### 3. 時系列

- 9 : 40 防護管理Gの定例パトロール開始
- 10 : 03 防護管理G員が、Aテント上部の破損を発見  
(その後パトロールを継続)
- 10 : 55 パトロール終了
- 11 : 04 防護管理G員が、新事務棟 防護管理Gに破損状況を連絡
- 11 : 15 防護監理Gより廃棄物管理Gに連絡  
主管Gによる現場確認開始 (線量率、ダストの測定など)
- 11 : 44 保安班長より発話
- 12 : 15 通報(第1報)
- ～ 現在 廃棄物管理Gおよび建築第四Gにて修理方法について検討中

## 4. 事象確認時モニタリング状況

### ■ 敷地境界MP(線量率)

MP1: 1.9 $\mu$ Sv/h前後(有意値変動なし)

MP2: 3.6 $\mu$ Sv/h前後(有意値変動なし)

### ■ 敷地境界MP(ダスト)

MP1、MP2における連続ダストモニターの値は有意な上昇なし

### ■ テント入り口付近の線量率

0.16mSv/h(2/10)→0.14mSv/h(2/16):変動なし

### ■ テント内外ダスト濃度

テント内:  $3.1 \times 10^{-5}$  Bq/cm<sup>3</sup> ((Cs-134)  $6.7 \times 10^{-6}$  Bq/cm<sup>3</sup>、(Cs-137)  $2.4 \times 10^{-5}$  Bq/cm<sup>3</sup>)

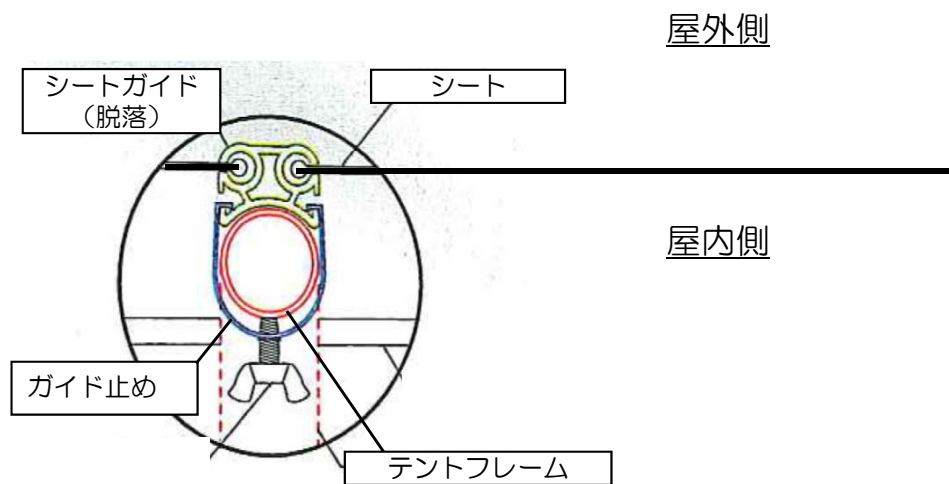
テント外: 検出限界値未滿

(検出限界値: (Cs-134)  $1.8 \times 10^{-6}$  Bq/cm<sup>3</sup>、(Cs-137)  $2.8 \times 10^{-6}$  Bq/cm<sup>3</sup>)

テント外については事象発生確認以降、検出限界値未滿



## 5. 推定原因



屋根部断面図 (A-A)



シート切断部拡大状況

### ■事象発生の原因 (推定)

- テント設置から約3年5ヶ月 (2011年9月～2015年2月) の間、風を受けている影響でテントフレームに固定しているシートガイドが脱落しシートが外れたと推定される。  
尚、具体的な原因については今後詳細に調査する。

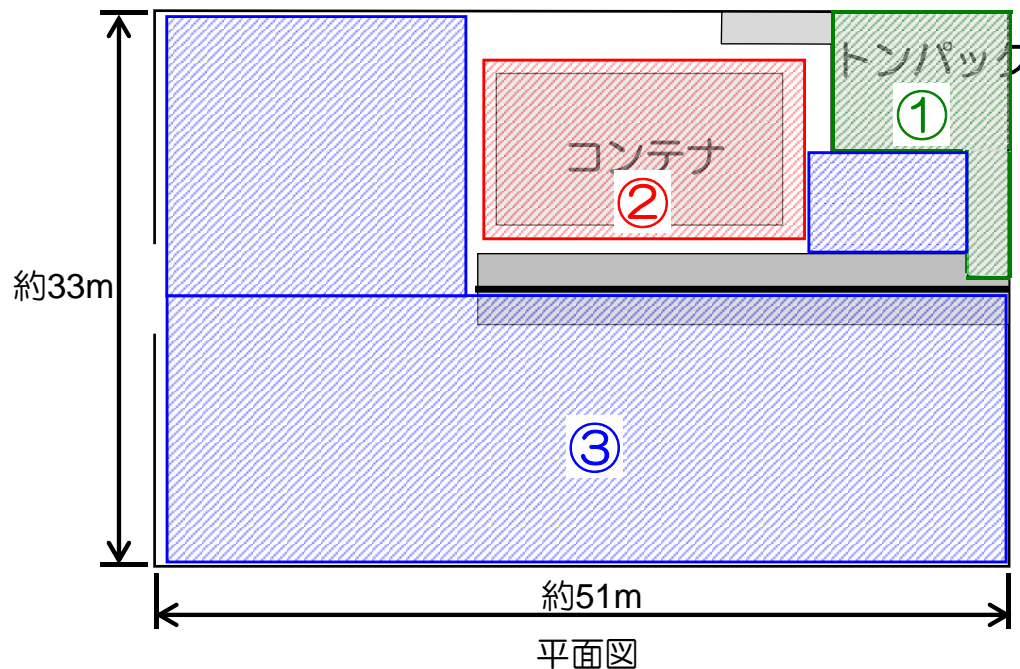
(参考)

- 設計風速 : 30 [m/s]
- 当日の最大風速 : 20.2 [m/s]  
(サイト内風向風速計データ)

# 6. 応急処置

## ■対応内容

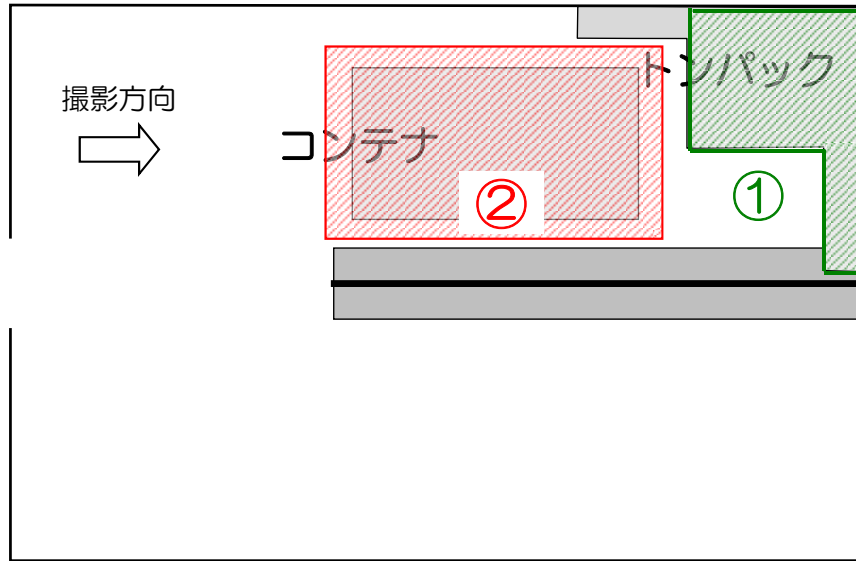
Aテント補修までの応急措置としてテント内  
コンテナ移動及び床部の全面シート敷設を実  
施し、ダストの飛散防止を図る。  
今後シートによるダスト飛散養生を実施後、  
高所作業車を使用し詳細調査を実施する。



	2月										3月							
	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	1	2	3	4	5	6	7	8
	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
環境調査	■																	
粉塵防止対策(霧状散水)		■			■	■	■	■	■	■								
① 埋設ガレキシート養生		■																
② コンテナ移動					■	■												
③ 全面シート敷設							■	■	■	■	■							
補修調査													■	■	■	■	■	■

スケジュール

# 7. 対応状況



平面図



②コンテナ移動  
作業状況 (H27.2.23)



①ガレキ覆土シート養生  
完了状況 (H27.2.20)



③コンテナ移動  
完了状況 (H27.2.24)